

「仕事と生活の調和」実現度指標について(概要版)

男女共同参画会議仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する専門調査会

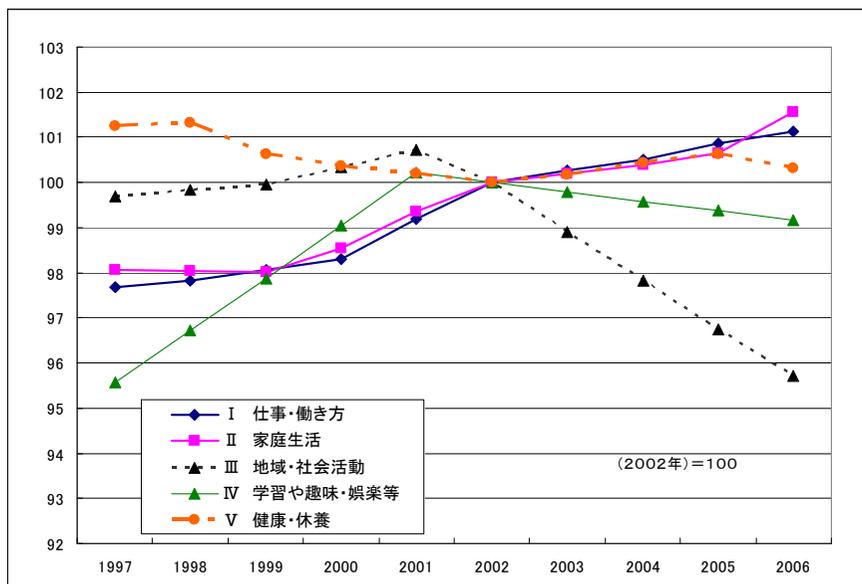
1. 「仕事と生活の調和」実現度指標とは

「仕事と生活の調和」実現度指標とは、我が国の社会全体でみた①個人の暮らし全般に渡る仕事と生活の調和の実現状況(=個人の実現度指標)と、②それを促進するための官民の取組による環境の整備状況(=環境整備指標)を数量的に把握し、その進展度合いを測定するものである。

2. 指標の体系

個人の実現度指標については、「Ⅰ. 仕事・働き方」、「Ⅱ. 家庭生活」、「Ⅲ. 地域・社会活動」、「Ⅳ. 学習や趣味・娯楽等」、「Ⅴ. 健康・休養」の5分野から構成される。それぞれの分野ごとに仕事と生活の調和の実現度を代表すると考えられる構成要素を抽出し、いくつかの項目ごとに合成して、最終的には5分野ごとの実現度指標を算出した。また、環境整備指標については、分野を設けず一つの指標として算出した。

3. 結果 個人の実現度指標の5分野の推移



(注1) 上記指標は、2002年を基準年として指数化したものであり、各年の水準は各分野における基準年と比較した相対的な状況を示している。

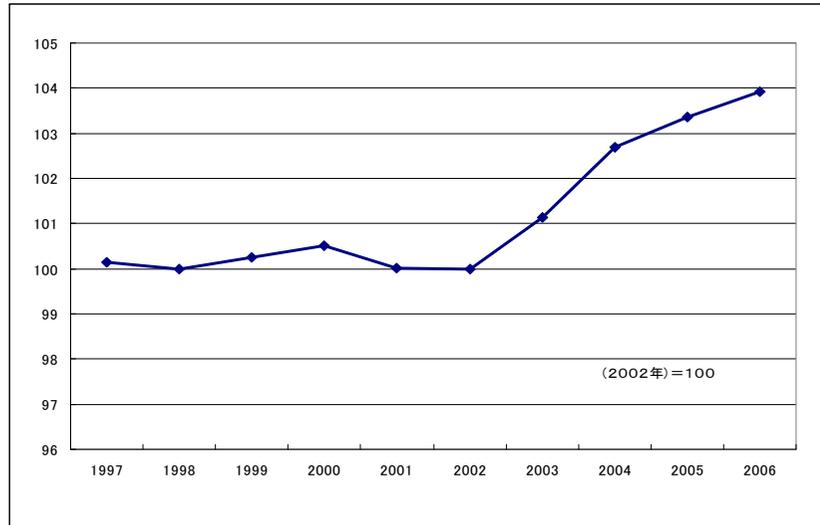
(注2) 指数の上昇(低下)は、各分野における仕事と生活の調和が進展(後退)していることを意味する。

「Ⅰ. 仕事・働き方」は上昇している。これは、育児休業制度の利用者が増えるなど、働き方の柔軟性が高まっていることによるものである。また、「Ⅱ. 家庭生活」も男性の家事・育児等への関わりが増加したことから上昇している。

他方、「Ⅲ. 地域・社会活動」は2002年まではほぼ横ばいで推移していたが、近年、交際・つきあいが希薄になっていることを反映して低下している。「Ⅳ. 学習や趣味・娯楽等」は、近年はわずかながら低下している。

「Ⅴ. 健康・休養」は、仕事量を理由とするストレス等を持つ人が増えていることなどで低下してきたが、このところ横ばいで推移している。

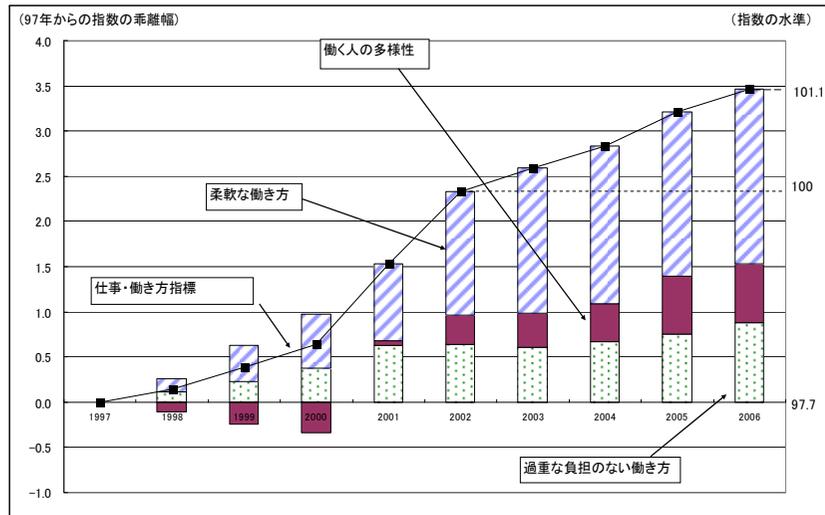
環境整備指標の推移



(注1) 上記指標は、2002年を基準年として指数化したものであり、各年の水準は基準年と比較した相対的な状況を示している。

(注2) 指数の上昇(低下)は、官民の取組みによる環境の整備状況が進展(後退)していることを意味する。

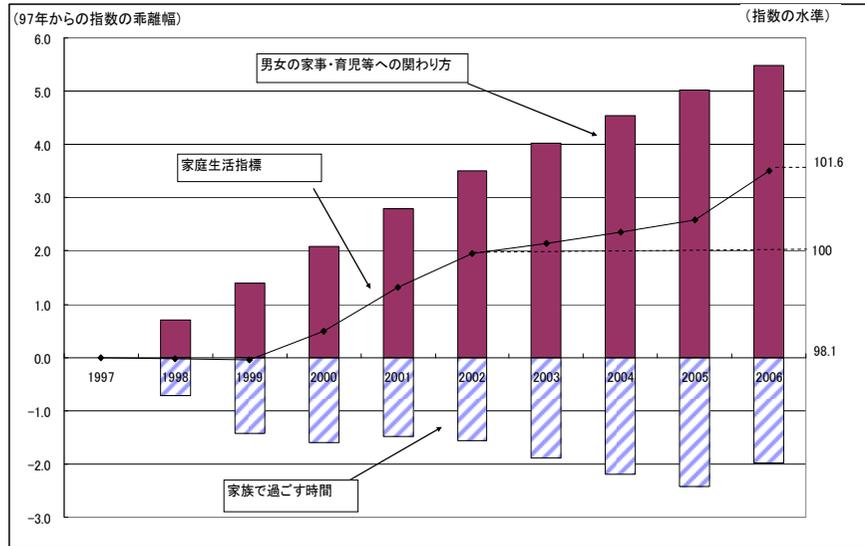
I. 「仕事・働き方」の推移の内訳



「環境整備指標」は、2002年まで概ね横ばいで推移していたが、その後、保育サービス等の充実や収入面での自立する機会の改善等を反映して上昇している。

「I. 仕事・働き方」では、育児休業制度の利用者が増えるなど「柔軟な働き方」が上昇している。他方、「働く人の多様性」においては、女性の就業は増加しているものの、女性が出産・育児等に影響なく継続して働ける状況は近年変化がみられない。また、「過重な負担のない働き方」も、フリーターの数が減少している反面、通勤時間などを含む仕事のための拘束時間が長くなっていることに相殺され、横ばいとなっている。

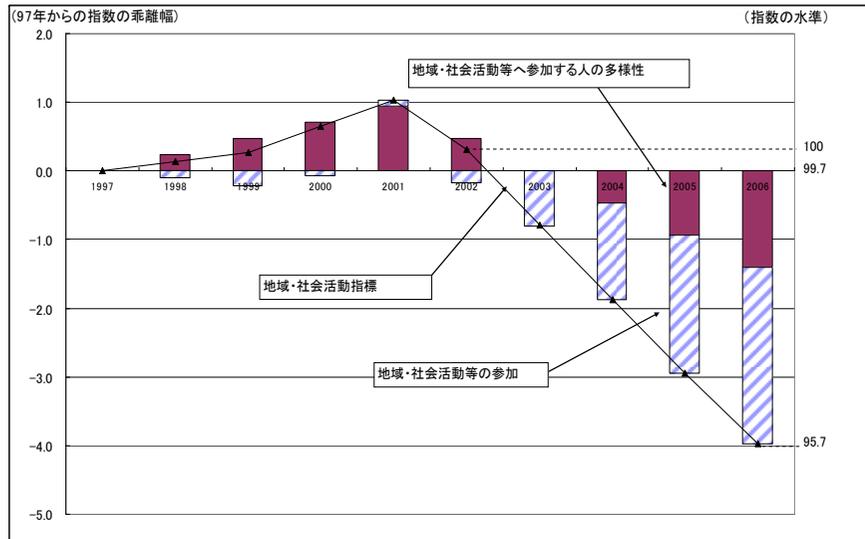
Ⅱ. 「家庭生活」の推移の内訳



(注)「家族で過ごす時間」は最新のデータがないため、他の構成要素の伸びを用いて補外した。

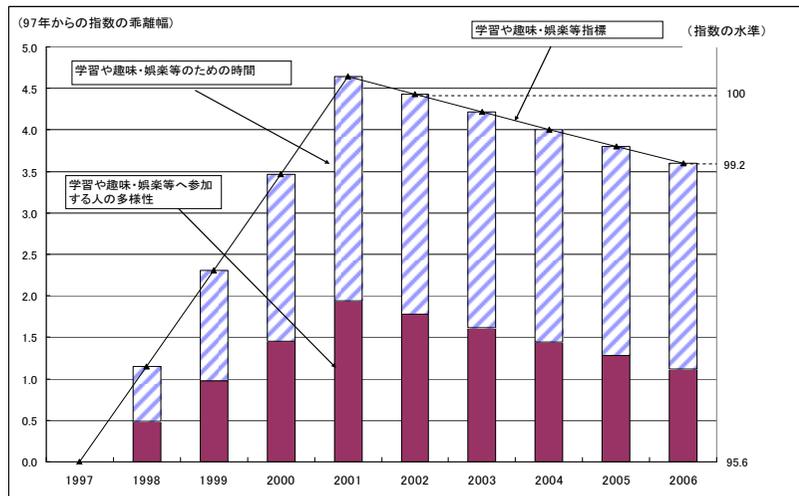
「Ⅱ. 家庭生活」では、男性の家事・育児等への関わりが増加しており、「男女の家事・育児等への関わり方」が大きく押し上げ要因として働いているが、親子の対話の満足度の低下を反映して「家族で過ごす時間」については押し下げ要因として働いている。

Ⅲ. 「地域・社会活動」の推移の内訳



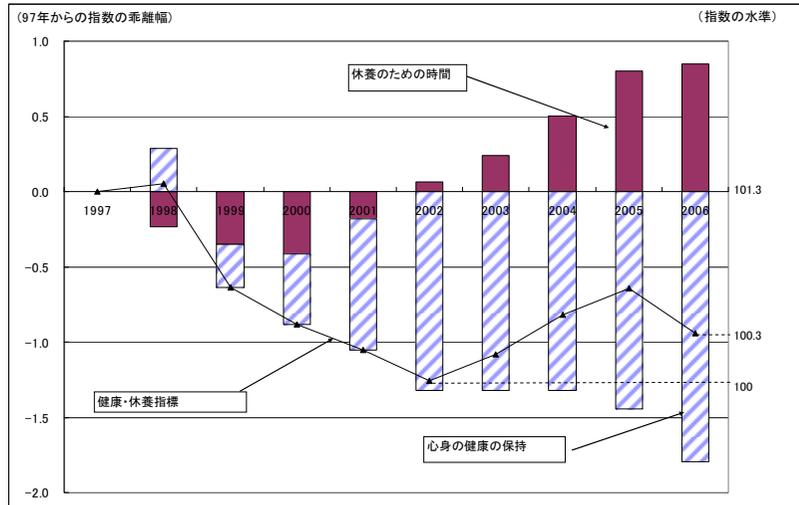
「Ⅲ. 地域・社会活動」では、交際・つきあいが希薄になっていることを反映して、つきあい・交際に費やす時間に係る「地域・社会活動等の参加」が特に低下している。

IV. 「学習や趣味・娯楽等」の推移の内訳



「IV. 学習や趣味・娯楽等」では、学習・研究を行う人が減少していることを主因に、「学習や趣味・娯楽等のための時間」、「学習や趣味・娯楽等への参加する人の多様性」が、近年は両者とも緩やかに低下している。

V. 「健康・休養」の推移の内訳



「V. 健康・休養」では、近年は、休養する時間は確保され、「休養のための時間」が押し上げ要因として働いているが、「心身の健康の保持」の押し下げ要因に相殺され、全体ではおおむね横ばいで推移している。

4. 今後の予定

「仕事と生活の調和」実現度指標は、原則として毎年指標を更新して公表する。その際、必要に応じて構成要素の入れ替えなどの見直しを検討する。